

# 1 鎌倉市スマートシティ構想（素案）について

- (1) 背景・目的
- (2) スケジュール
- (3) 対象区域
- (4) 基本理念・基本原則
- (5) 推進体制
- (6) リーディングプロジェクト
- (7) 既に動き出しているスマートシティの取組

# (1) 鎌倉市のスマートシティの背景・目的

- 昨今の技術革新をめぐる世界的な潮流を背景に、日本でも「第4次産業革命の技術革新を、あらゆる産業や社会生活に取り入れることにより、様々な社会課題を解決するSociety5.0を世界に先駆けて実現する」という方向性が、政府から示されています。
- 国内では、先端技術やデータを活用し、都市や地域の機能・サービスを効率化・高度化し、人口減少・少子高齢化等の各種社会課題を克服して市民生活に快適性や利便性などの新たな価値を創出するまちづくり、「スマートシティ」の構築が求められています。

## SDGsに示される社会課題

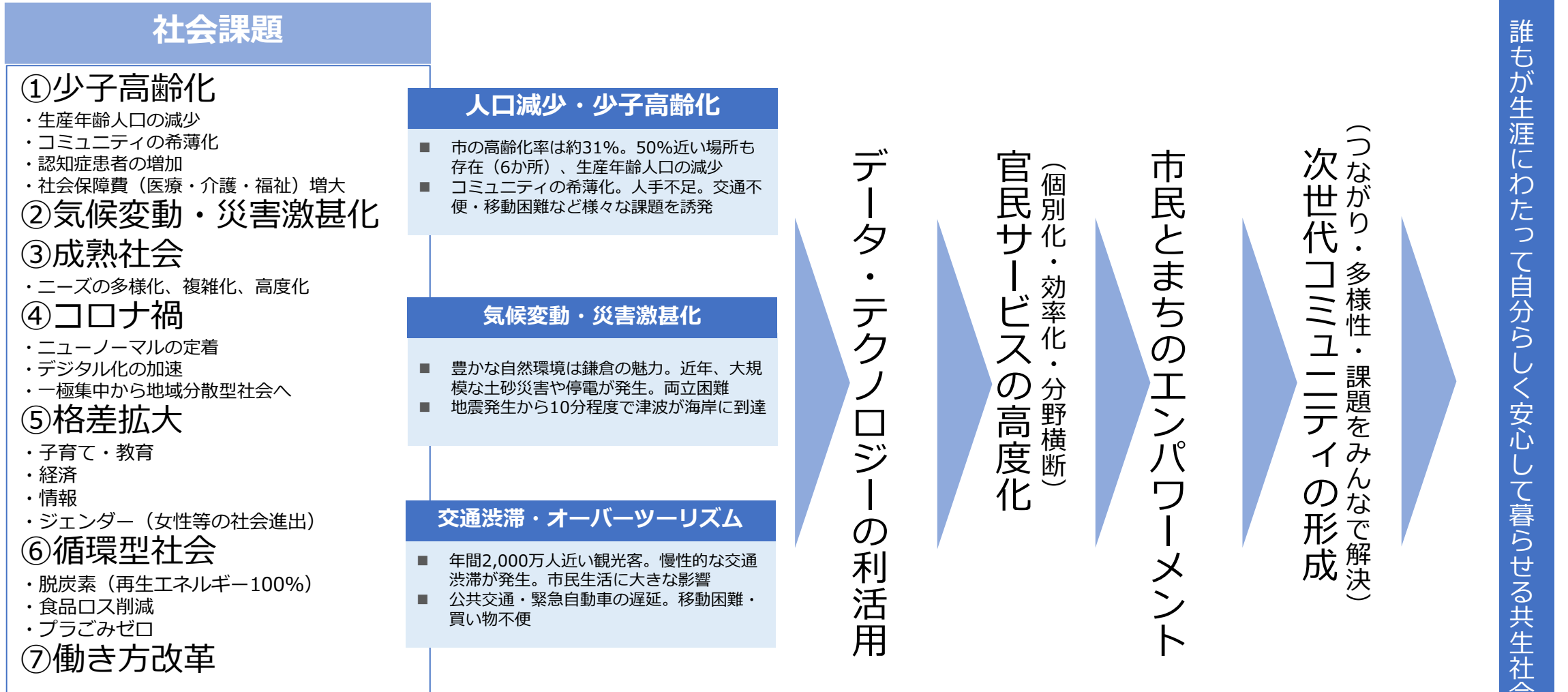


## 人にやさしいテクノロジー



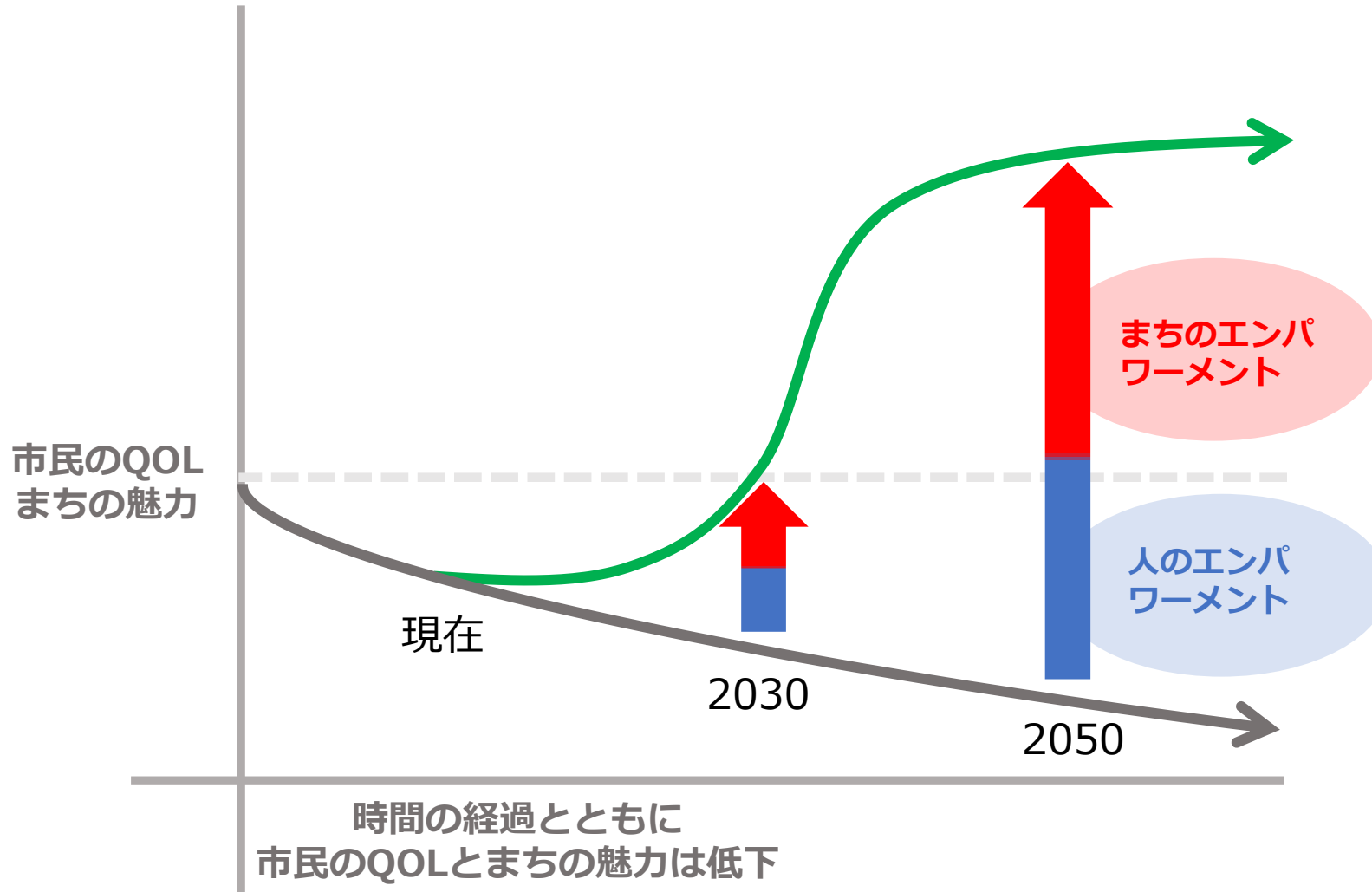
# (1) 鎌倉市のスマートシティの背景・目的

- 鎌倉市は、先人から連綿と受け継いできた歴史や文化、そして豊かな自然環境に恵まれた都市です。一方で、災害への脆弱性をはじめ、オーバーツーリズムや慢性的な交通渋滞、超少子高齢化の進行といった課題が山積しています。
- これらの課題解決や、今後直面することになる様々な課題に対応できる仕組みや体制を構築するとともに、地域が自律的に成長する力を育て市民のQOLとまちの魅力向上を図るため、令和2年4月に産官学民の共創によるスマートシティの取組に着手しました。



# (1) 鎌倉市のスマートシティの背景・目的

より多くの市民が参加し、官民連携の総力戦で課題解決に取り組む好循環モデルを創出



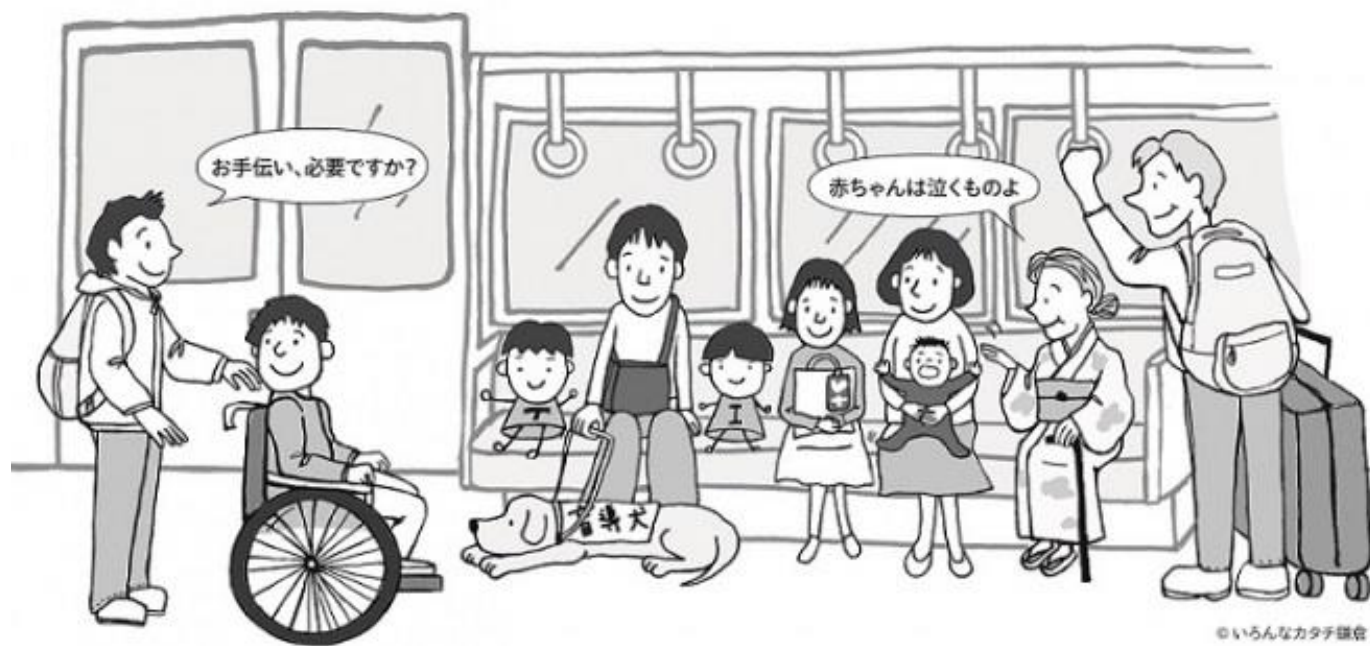
スマートシティの取組によって  
市民のQOLとまちの魅力を向上

- ①人や地域のつながり  
(思いやり、助け合い)
- ②多様性の尊重  
(障害者、高齢者、子供、  
女性など)

市民と企業等（テクノロジー）  
の共創で課題を見える化し、  
みんなで解決する

# (1) 鎌倉市のスマートシティの背景・目的

## 将来像



「すべて国民は、個人として尊重される。」からはじまる日本国憲法第13条は、個人の尊厳及び幸福追求権について規定しています。私たちの年齢、性別、性的指向や性自認、障害及び病気の有無、家族のかたち、職業、経済状況、国籍、文化的背景などは、それぞれ異なります。多様な人々が尊重され、どのような立場になろうとも、自分らしくいられる社会が、私たちの目指す共生社会です。

近くにいる人の生きにくさに思いをめぐらせてみましょう。自分らしく生活したくとも、多くの人にとっての「ふつう」や「当たり前」を前提とした社会に、生きにくさや居心地の悪さを感じる人がいます。「ふつう」や「当たり前」の意味は人によって違うからです。互いの違いを思いやり、配慮することで、人はみな、共に生きられます。目に見える事柄はもとより、目に見えない、あるいは言葉にできない生きにくさに気づくことが、共生社会への一歩となります。私たちは、多様性を認め、互いを思い、自分らしく安心して暮らせる社会を、鎌倉市において実現するために、この条例を制定します。

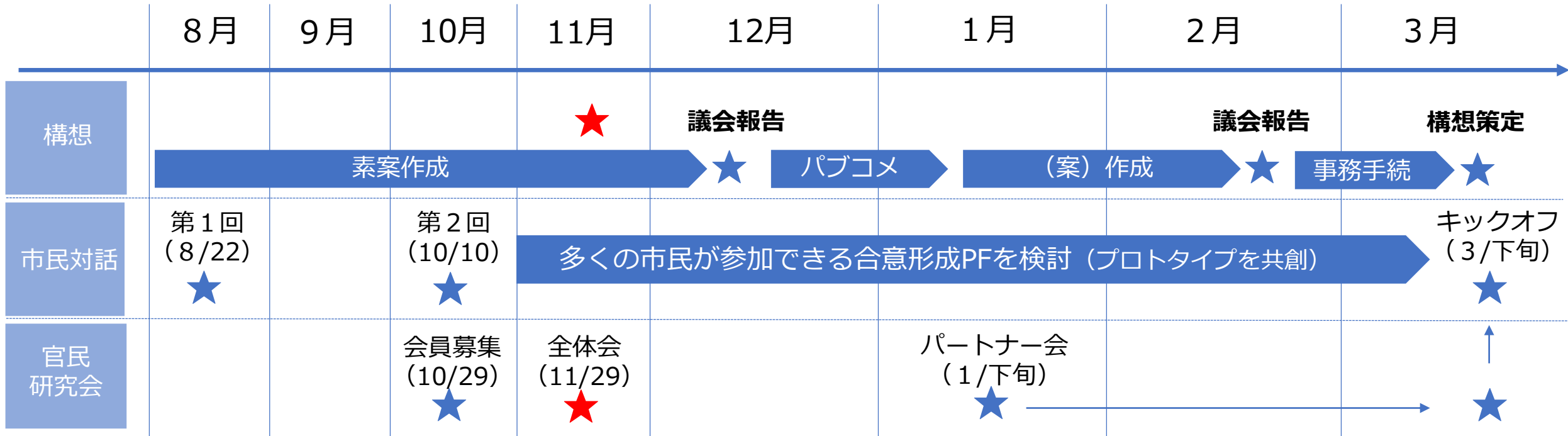
鎌倉市共生社会の実現を目指す条例(前文)

今日から、みんなです!

自分らしく、生きる。共に、生きる。

## (2) 鎌倉市スマートシティのスケジュール

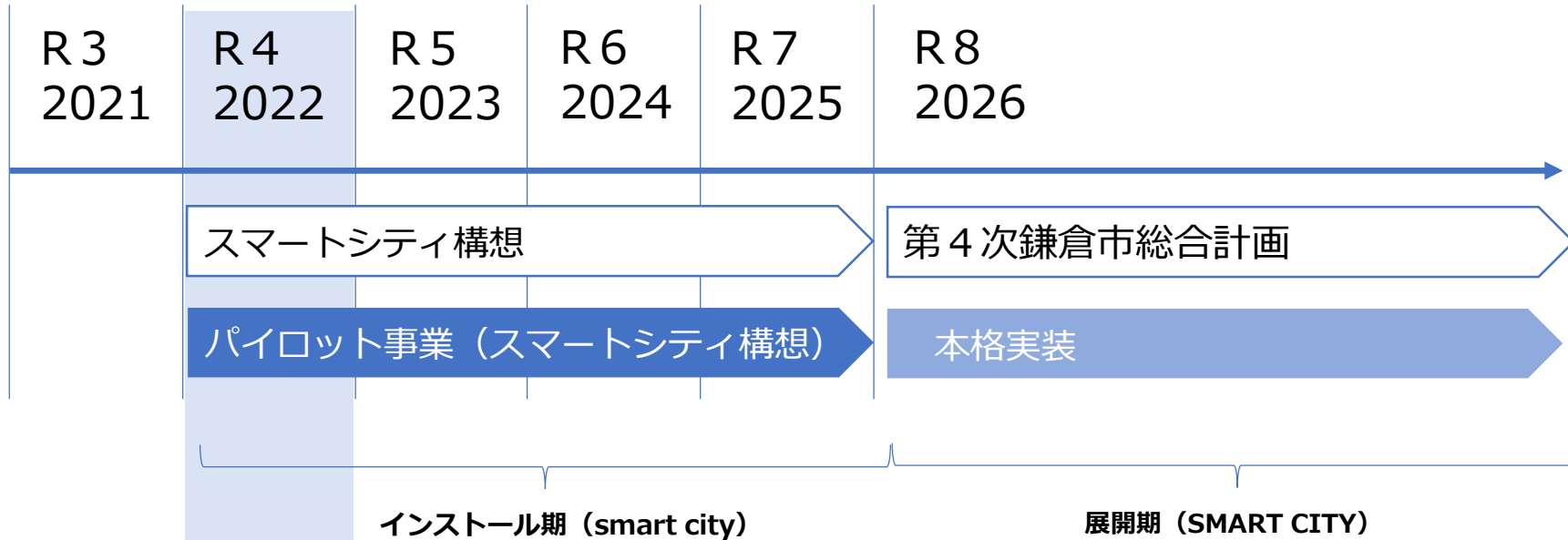
### 【令和3年度】全体スケジュール（R3スマートシティ構想策定）



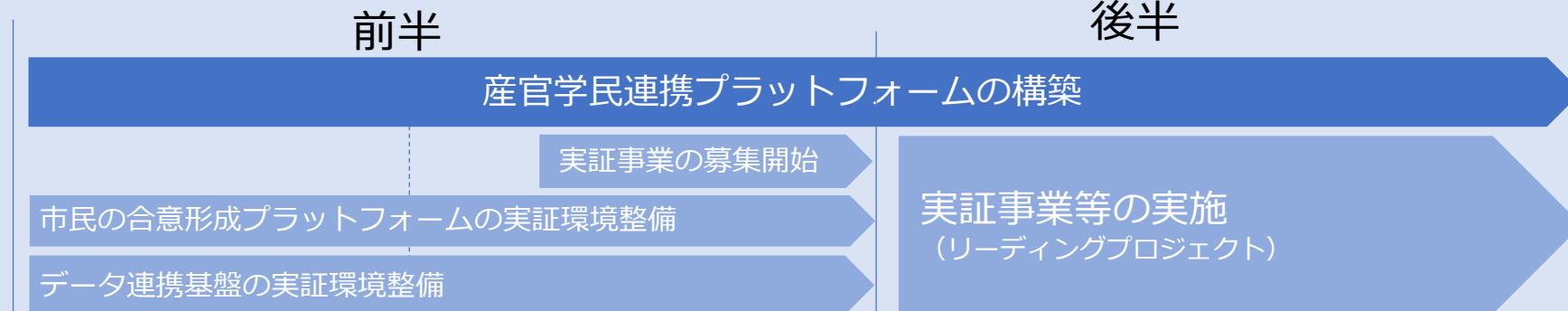
※スケジュールは現時点での想定です

## (2) 鎌倉市スマートシティのスケジュール

### 【令和4年以降】全体スケジュール



### R4パイロット事業





### (3) 鎌倉市のスマートシティの対象区域

## 対象地域は市全域

既存の市街地やこれから新たなまちづくりが進む場所など、地域特性を活かし、互いに影響し合うような展開を目指します。

- 鎌倉のまちは、鎌倉駅周辺や谷戸地形などに代表される古くから住宅地や商店街として土地利用が進んできた場所、大船駅周辺などに代表される都市的土地利用が進む場所、さらに高度経済成長期に開発された大規模住宅地などの既存市街地①と、新たなまちづくりが進む場所②と性格の異なる2つの地域が存在
- 性格の異なる地域がそれぞれの特性を生かした役割を果たし、互いに影響しあうことで、市域全体のポテンシャルを高めていく

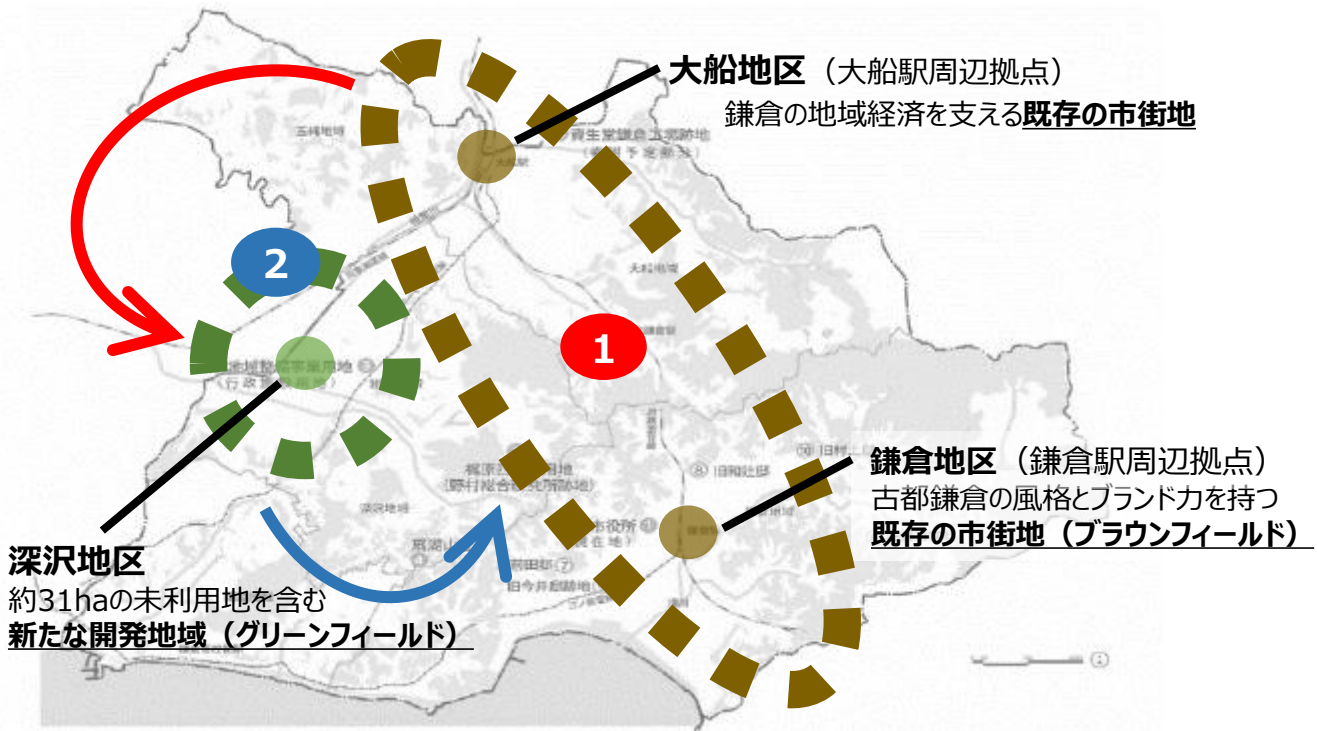
1

旧鎌倉地区や大船地区などの既存の市街地で発生している①災害激甚化、②交通・観光の適正化、③超少子高齢化などの地域課題に対し、データやテクノロジーを活用して先行して取組む

2

既存の市街地での取組で得た知見を、今後開発が進む深沢地区の新たなまちづくりに生かす  
さらに、深沢のまちづくりの成果を既存の市街地にフィードバックし、新たなまちづくりと既存の市街地のまちづくりを立体的に取組む

未来への循環





# (4) 基本理念・基本原則

誰もが生涯にわたって、自分らしく安心して暮らすことのできる共生社会の実現を目指し  
次の理念と原則に従い、人にやさしいデータやテクノロジーを活用したスマートシティの取組を推進します

## 基本理念

1

### “市民起点”

市民ニーズや課題を起点に、人にやさしいデータやテクノロジーを課題解決の一つの手段として活用し、市民の生活の質の向上を目指す

2

### “共生の精神”

市民力・地域力を活かし、自然をはじめまちに関わる全ての要素を繋げ、地域課題を解決し、まちの魅力を高める

3

### “鎌倉らしさの継承”

古いものを大切にしながら、積極的に新しいものを取り入れ、新たな価値を築く

## 基本原則

1

### 公平性・包摂性 社会的影響

▼誰一人取り残さない共生社会を実現するために、デジタルデバイドの解消に取組み、希望する全ての市民※が等しく人にやさしいデータやテクノロジーに支えられたサービスを楽しむように努めます。  
▼鎌倉の文化や歴史を踏まえたWell-Beingを可視化し、定量的な評価を基に取り組みを継続的に進化させます。

2

### プライバシー 保護・透明性

▼個人情報保護の関連法令を遵守し、透明性の高いルールと手続きに従い、本人同意に基づいてのみ個人情報を取得、提供（オプトイン）するなど、プライバシーの確保を徹底します。

3

### 相互運用性 ・オープン性

▼地域やシステム、分野の壁を越えた高度なデータやサービスの連携による相互運用性を確保し、サービスの全体最適化と新たな価値の創出を図ります。

4

### 安全・安心 ・強靱性

▼激甚化する災害やCOVID-19等の感染症、など予測困難な事態に直面した場合でも、最低限の都市機能や社会経済システムの継続性を維持しながら、早期に復旧できるレジリエントな体制を確保します。

5

### 持続可能性

▼新たなサービスやソリューション、事業の立ち上げにあたっては、社会実装を見据え受益者を意識した事業設計を行うことで、運用面・財政面の両側面から持続可能性を確保します。  
▼生活様式の変化などをとらえ、地域に根差した新たなコミュニティ形成を進め、市民活動の活性化と持続可能なまちづくりを進めます。

6

### 対話・共創 ・主体性

▼市民を中心に、産官学民のマルチステークホルダーによる主体的かつ能動的な対話と丁寧な合意形成を重視した取組を進めます。  
▼合意形成にあたっては、人にやさしいデータやテクノロジーの利活用に伴い発生するおそれのあるリスクや倫理的課題の明確化を徹底し、市民の理解と信頼に基づく運用に努めます。

※年齢、性別、性的指向や性自認、障害及び病気の有無、家族のかたち、職業、経済状況、国籍、文化的背景などが異なる多様な人々（市民）（鎌倉市共生社会の実現を目指す条例前文から抜粋）

## アンケート調査

スマートシティに期待する点、懸念点

1

### 共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査

1. 調査地域 鎌倉市全域
2. 調査対象 満 18 歳以上の市民
3. 調査対象数 4,000 人  
(各 2,000 人の A グループ / B グループ)
4. 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
5. 調査時期 令和3年4月～5月
6. 調査方法 調査依頼を郵送し、回答は郵送回答又はインターネット回答・満 65 歳未満は郵送依頼・インターネット回答

「共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査」

#### 単純集計結果

##### 目次

1. 新型コロナウイルス流行による影響について…………… P.2
2. インターネット・情報通信機器の利用状況について…………… P.4
3. スマートシティと行政のデジタル化の推進について…………… P.21
4. 鎌倉市の情報発信について…………… P.29
5. 鎌倉市の推進する共生社会について…………… P.38
6. 地域活動への参加について…………… P.45
7. マナーや規制と価値観について…………… P.46
8. あなたの考え方・価値観や、あなた自身のことなどについて…………… P.51

##### ■ 調査の概要

調査地域	鎌倉市全域
調査対象	満18歳以上の市民(2021年3月1日時点)
調査対象数	4,000人(各2,000人のAグループ/Bグループ)
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	調査依頼を郵送し、回答は郵送回答又はインターネット回答 ・ 満 65 歳未満は郵送依頼・インターネット回答 (ただし、郵送回答希望者には別途調査票を送付) ・ 満 65 歳以上は郵送配布・郵送回答 <回答率向上施策> Aグループのみ、回答率を向上させる複数の方法を用いました ① 事前協力依頼 調査対象者に、回答依頼の6日前に、調査対象者になった旨を通知し、協力を依頼。 ② 督促 調査締切後、未回答の対象者に改めて協力を要請するとともに、締切を延長。 ③ 謝礼 締切までに回答を頂いた全回答者に、クオカード 300 円分を贈呈。さらに、早期回答者(発送後 9 日以内)へは 200 円分を追加し、全体の回答率目標(70%)を達成した場合には、全回答者にさらに 200 円分を追加。
調査期間	4月16日(金)～4月30日(金) ・ Aグループのみ、督促実施後 5月 21日(金)へ延長
回収結果	Aグループ:1,188票(回収率59.4%) / Bグループ:609票(回収率30.5%)

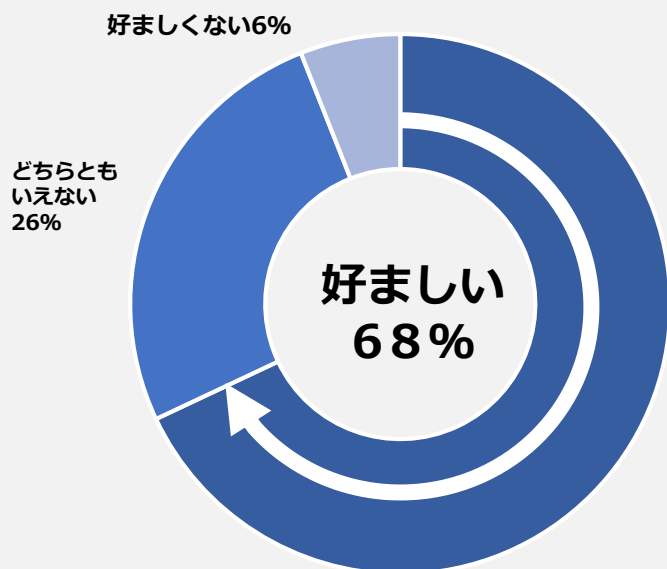
##### ■ 数値の見方

各設問の無回答には無効回答を含んでいます(問 A で「はい」を選んだ人を対象とした問 B に、問 A で「いいえ」を選んだ人が回答している場合など)

# 共生社会の実現に向けた スマートシティの推進に関する意識・価値観調査

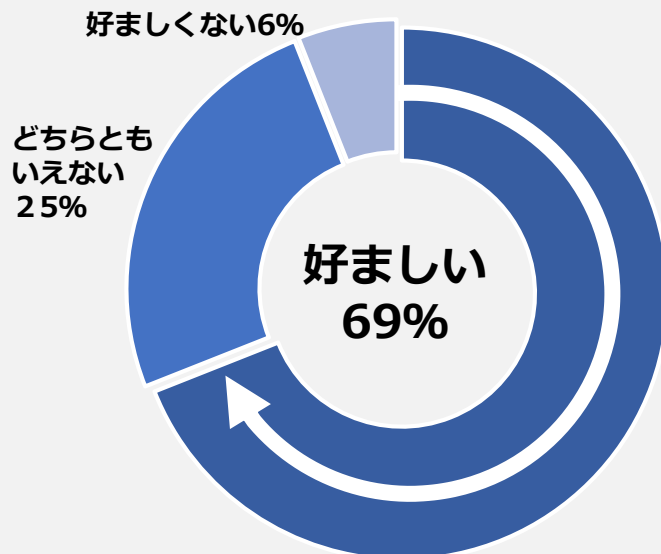
## Point 1

社会のデジタル化の進行に関して、どのような印象を持っているか



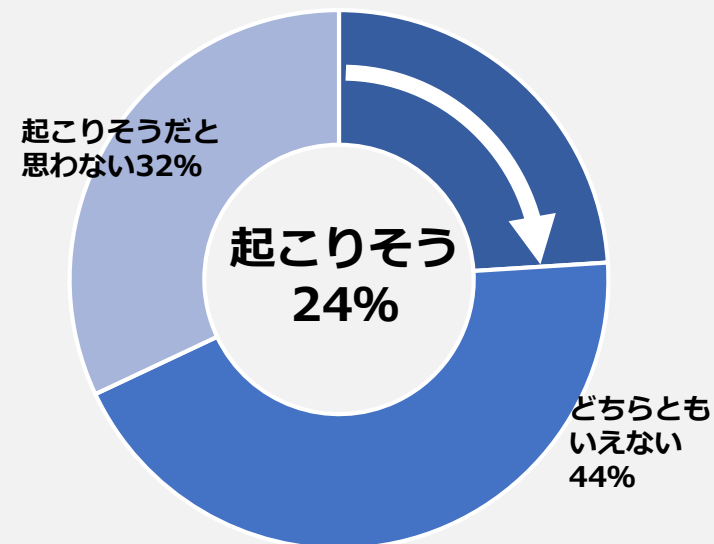
## Point 2

鎌倉市がデジタル化を推進することに関して、どのような印象を持っているか



## Point 3

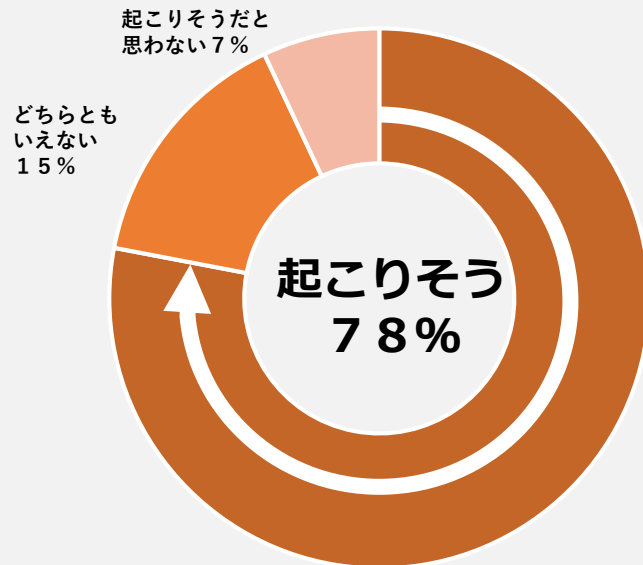
一人ひとりに合わせたサービスが可能になり、社会から孤立する人が減る



# 共生社会の実現に向けた スマートシティの推進に関する意識・価値観調査

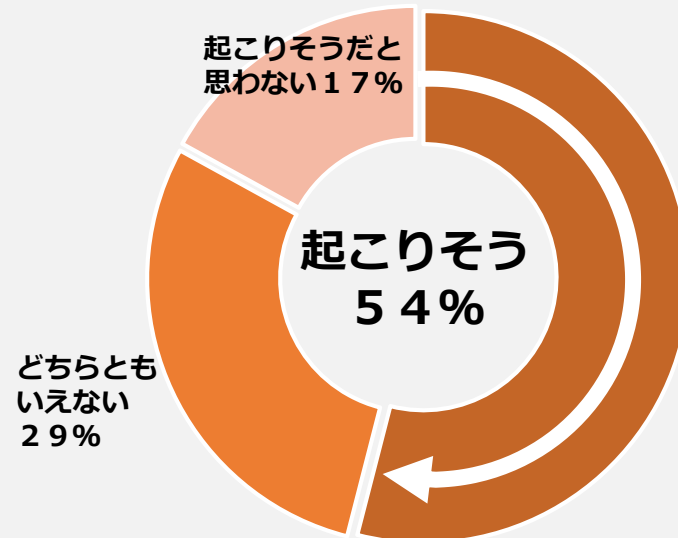
## Point 1

個人情報やプライバシーの  
権利が脅かされる



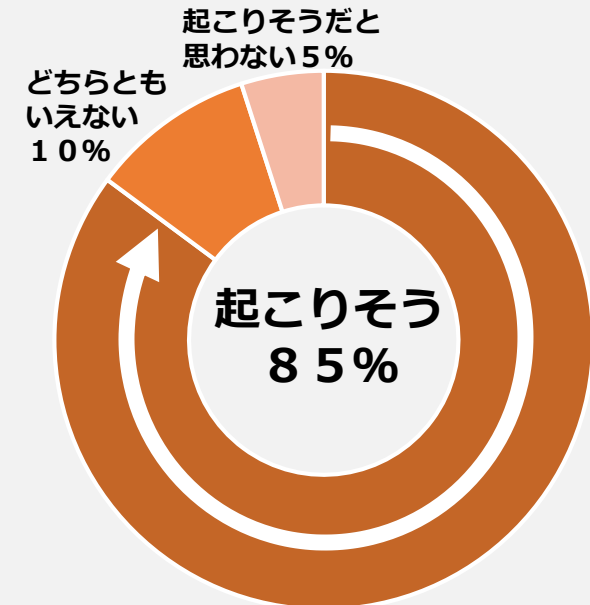
## Point 2

触れ合いが減り、地域の  
コミュニティが失われる



## Point 3

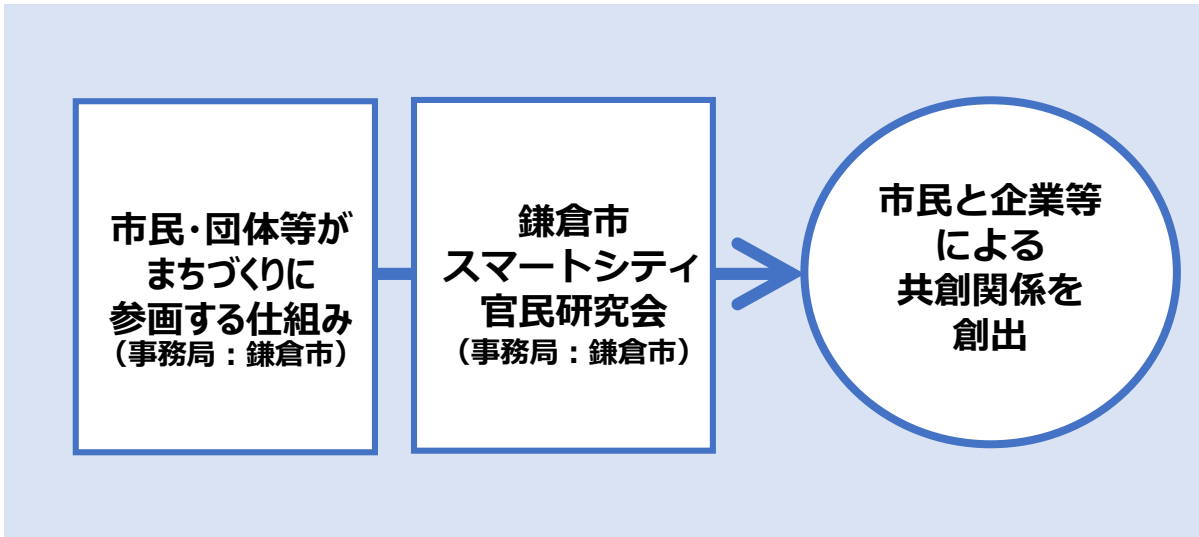
経済的事項がある人や高齢  
者などのICTの活用が困難  
な人が不利になる



# (5) 推進体制

## 推進体制

- 鎌倉市スマートシティでは、市民のQOL・まちの魅力向上に向けて、まちづくりを担う市民・団体等と、先端技術・サービスの開発・提供を担う鎌倉市スマートシティ官民研究会の連携を促進し、共創関係の創出により課題解決に取り組みます。



### 【共創を生み出す基盤構築】

- I 多くの市民が参加できる合意形成PFの構築
- II 産官学民によるオープンイノベーションの環境を整備
- III データ連携基盤の整備・オープンデータの拡充
- IV 戦略的広報、人材育成、調査・研究の推進

## 共創を生み出す基盤

### I 多くの市民が参加できる合意形成PFの構築

- ① オンライン合意形成プラットフォームの構築
  - ・ 市民起点の実現と新たなコミュニティの形成
  - ・ オンラインとオフラインを組合せ、誰もがオープンに参加可能な仕組みを構築
- ② データ利活用等と官民共創の取組との連動
  - ・ プライバシー保護と透明性確保、リスクや倫理的課題の明確化の徹底

### II 産官学民によるオープンイノベーションの環境を整備

- ① 庁内推進体制の強化
  - ・ 外部人材の活用
  - ・ 縦割りの打破
- ② 大学との連携
  - ・ 共同研究の促進
- ③ 官民共創による推進体制の強化
  - ・ 鎌倉市スマートシティ官民研究会を活用した連携促進
  - ・ 市民と企業等の共創関係を創出する実証事業等を推進
  - ・ 新産業創出、神奈川県ベンチャー支援との連携強化

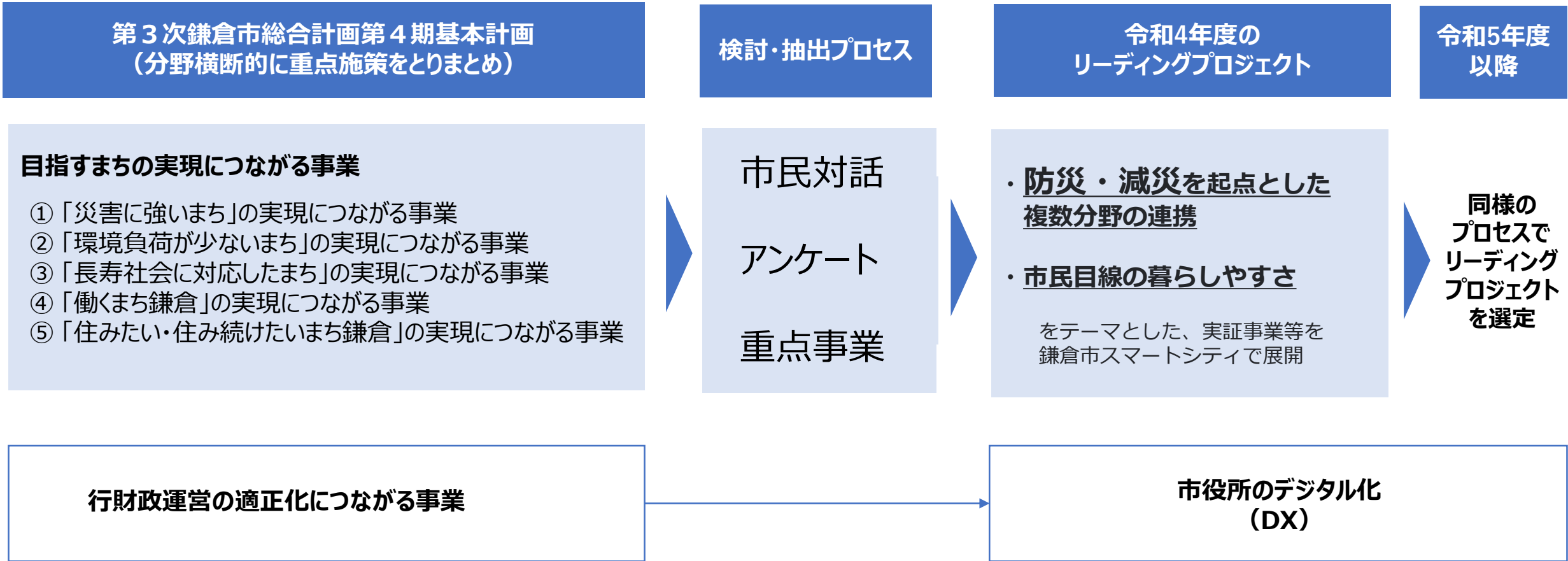
### III データ連携基盤の整備・オープンデータの拡充

- ① 官民によるデータ利活用の促進
  - ・ ユースケースの創出  
(行政や企業を対象としたアイデアソン・ハッカソン等の開催、EBPMの推進、データ連携基盤の実証環境の整備等)
- ② 行政データの整備
  - ・ オープンデータの拡充  
(紙データ等のデジタル化やデータのクレンジング、一元化・標準化を実施)
- ③ データ流通PFの構築 (取引条件・仲介機能)
  - ・ 提供者の課題と利用者のニーズの把握
  - ・ データ流通・利活用のケーススタディ事業の実施やルールの整備
  - ・ システム基盤の構築

### IV 戦略的広報、人材育成、調査・研究の推進

- ・ ターゲットに合わせたプラットフォームの構築 (市HP、note、SNSの活用)
- ・ 継続的な情報発信 (グッドプラクティス、イベント、インタビュー等)
- ・ データ利活用に対する理解促進 (市民データサイエンティストの養成、アイデアソンの開催等)
- ・ シニア向けデジタル講座等の充実
- ・ 住みやすさと幸福度の数値化・指標化 (※LWCI) の調査・研究 (P13参照)  
※LWCI (一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが研究している Liveable & Well-Being City 指標)

# (6) リーディングプロジェクト：令和4年度に取り組むプロジェクトの対象領域



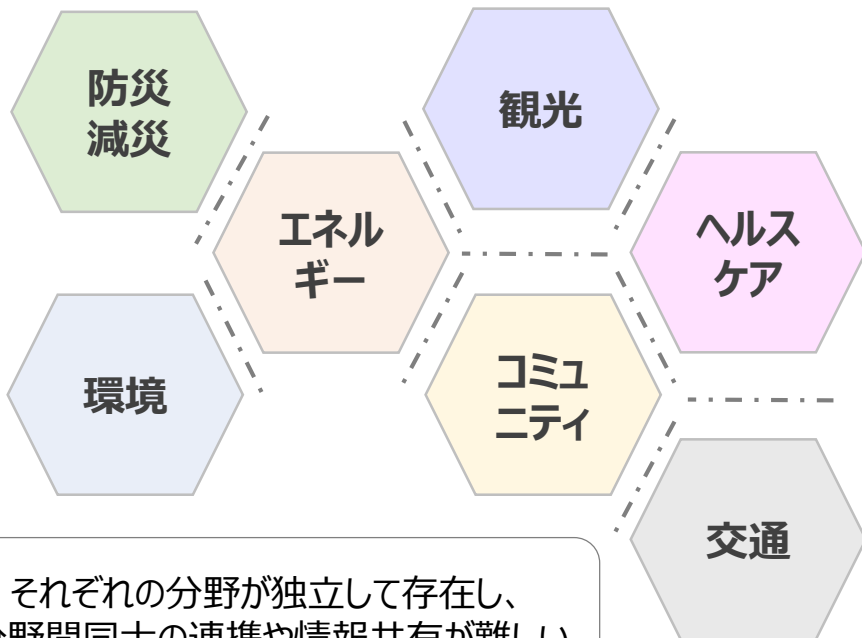


# (6) リーディングプロジェクト：防災・減災を起点とした複数分野の連携

## これまでの取り組み:分野ごとの取組

- それぞれの分野での課題解決に向けた取組みが個別最適化
- 情報やデータも組織や分野ごとに独立してしまっており、分野間を横断した新サービスの構築や課題に対する柔軟な解決策を打ち出しにくい

### これまでの対策イメージ

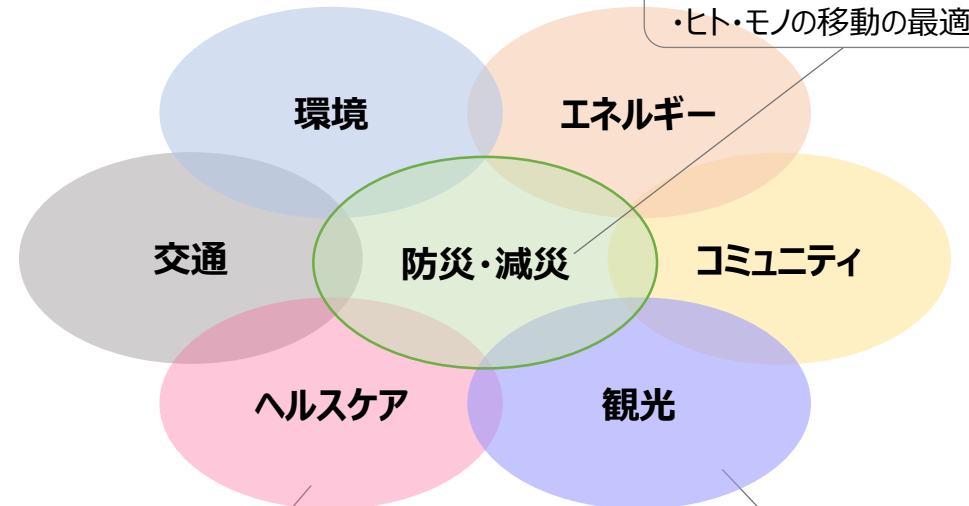


## これからの取り組み:分野間連携による取組

- 防災・減災を起点として、ヘルスケアや観光等、複数分野が連携する仕組みを構築
- 複数の行政分野にまたがる課題や、これまでの対策では解決困難な課題に対して解決可能な高度なサービスを提供することを目指す

### 分野間連携による対策イメージ

※四角内は連携例を記載



【課題】  
・被害状況の予測・把握  
・ヒト・モノの移動の最適化

(例) ハザードマップと要援護者の位置情報等から円滑な救助活動の実現

(例) 観光客の人流データから適切な避難誘導や災害対応の実現

# (7) 既に動き出しているスマートシティの取組

## 既に動き出しているスマートシティプロジェクトの一覧

### スーパーシティへの挑戦

- ✓ 鎌倉に関わる全ての人々にWell-Beingを高め、持続可能な共生社会の実現を目指す
- ✓ ロードプライシングを起点にした交通需要マネジメントと域内の道路空間の改善に注力



渋滞解消・事故の解消、周遊環境の改善等に主に注力

### デジタルガバメントの推進

- ✓ デジタルガバメントの推進による公共サービス（窓口のオンライン化や電子申請等）の利便性向上・社会インフラの適正な維持管理を目指す



### 共創による取組（官民連携など）

- ✓ 企業や大学等の持つ技術やノウハウをベースに、対話を重ねる中で、新しい価値を共に創り出していき、適切な市民サービスの提供や、個性豊かで活力のある持続可能な都市経営を推進



### 深沢地域のまちづくり

- ✓ 鎌倉、大船に続く第3の都市拠点形成を目指すとともに、まちづくりのテーマ「ウェルネス」を実現するため、居心地がよく、歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを目指す

- ・ ところとからだの健康を育むまち
- ・ イノベーションを生み出すまち
- ・ あらゆる人と環境にやさしいまち



### 公的不動産の利活用

- ✓ 鎌倉市役所（現在地）や梶原四丁目用地（野村総合研究所跡地）、深沢地域整備事業用地（行政施設用地）などの主要な5つの公的不動産の利活用推進についての方針を策定
- ✓ 鎌倉市役所（現在地）では、市民サービスの提供・公共施設再編と民間機能の導入による賑わいや憩いの創出するほか、公的不動産の利活用により、まちづくりにインパクトを与え、新しい価値の創造を目指す



### 新たな観光の推進

- ✓ 2022年放送の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を通じて、鎌倉の知られざる歴史文化を広く発信するとともに、人流の可視化や誘導など、分散型観光への新たな取組を推進
- ✓ 大河ドラマを活用した販い創出に官民一体となって取り組み、コロナ禍で疲弊した鎌倉のまちの活性化を図る



### 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)

- ✓ 「ゼロ・ウェイストかまくら」実現を目指し、慶應義塾大学と連携してデジタルプラットフォーム・IoT・3D製造技術を活用したプラスチックの減量や資源化を推進
- ✓ SIB等の調査・研究



「プラスチック地捨地消」デジタルプラットフォームのイメージ

### GIGAスクール

- ✓ 2020年度は「GIGAスクール構想」により、小・中学校の各教室にインターネット環境を整備し、全ての児童・生徒へ端末を配布
- ✓ 今後は2021年度に導入した習熟度や苦手なポイントを分析し、適切な問題を提案するAIドリルの授業での活用や、デジタル教科書を電子黒板に映す等分かりやすい授業づくりを推進

